

京 都 大 学
高 等 教 育 研 究
第 7 号

京都大学高等教育教授システム開発センター

2001

目 次

第一部 論 稿

論 文

- 「大学授業の構造と学生の学習経験の関連に関する研究——大学授業の参加観察を通して——」
藤 岡 完 治 京都大学高等教育教授システム開発センター 1
- 「啓蒙活動から相互研修へ——京都大学高等教育教授システム開発センターのFDプロジェクトをめぐって——」
田 中 每 実 京都大学高等教育教授システム開発センター 25
- 「大学教育評価の課題と展望」
大 山 泰 宏 京都大学高等教育教授システム開発センター 37
- 「ポジション理論を援用して授業者の成長を見る」
溝 上 慎 一 京都大学高等教育教授システム開発センター
田 口 真 奈 メディア教育開発センター 57
- 「授業通信による学生との相互行為Ⅰ——学生はいかに「藤のたより」を受け止めているか——」
藤 田 哲 也 京都光華女子大学文学部
溝 上 慎 一 京都大学高等教育教授システム開発センター 71
- 「授業通信による学生との相互行為Ⅱ——相互行為はいかにして作られたか——」
溝 上 慎 一 京都大学高等教育教授システム開発センター
藤 田 哲 也 京都光華女子大学文学部 89
- 「高等教育におけるインターネット利用の可能性——バーチャル・ユニバーシティ構築に向けて——」
神 藤 貴 昭 京都大学高等教育教授システム開発センター
田 口 真 奈 メディア教育開発センター
村 上 正 行 京都大学大学院情報学研究科 111
- 「教育学部学生の情報リテラシー教育の最適化に関する研究（Ⅱ）：最終回までに学生が獲得したこと」
子 安 増 生 京都大学大学院教育学研究科
林 創 日本学術振興会特別研究員・京都大学大学院教育学研究科
郷 式 徹 静岡大学教育学部
中 村 素 典 京都大学総合情報メディアセンター 131

研究ノート

「組織のFD活動と個人の授業改善」

吉田雅章 和歌山大学経済学部 145

第二部 記 録

「第7回大学教育改革フォーラム」(所属等はフォーラム開催時)

大学教員の教育能力をどう開発するか

開会の辞 荒木光彦 京都大学高等教育教授システム開発センター長 157

挨拶 長尾真 京都大学総長 158

パネルディスカッション

「大学教員の教育能力をどう開発するか」

問題提起 藤岡完治 京都大学高等教育教授システム開発センター・教授 159

提 案

「カリキュラム研究の立場から」

安彦忠彦 名古屋大学大学院教育発達科学研究科長 164

「学生による授業評価研究の立場から」

井下理 慶應義塾大学総合政策学部・教授 169

「大学における教育開発研究の立場から」

阿部和厚 北海道大学高等教育機能開発総合センター・教授 178

「大学における授業研究の立場から」

田中每実 京都大学高等教育教授システム開発センター・教授 183

討 議 187

高等教育教授システム開発センター日誌(2000年9月～2001年8月) 197

高等教育教授システム開発センター業績(2000年9月～2001年8月) 202

英文概要2000-2001 210

『京都大学高等教育研究』編集規定 215

『京都大学高等教育研究』投稿規定 215

『京都大学高等教育研究』投稿のための注意 216

『京都大学高等教育研究』編集規定

1. 本誌は京都大学高等教育教授システム開発センターの研究誌として、原則として1年に1回発行する。
2. 本誌には、本センター関係教官の論稿等の他、共同研究の報告その他本センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する。但し、「本センター関係教官の研究論文等」については、当分の間、次項に規定する編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものに限定する。
3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論稿等の掲載を希望する者は、所定の論稿投稿要領及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、原稿3部（うち3部はコピー可）及び原稿をテキストファイルで保存したフロッピーディスク（2HD、1.4MB）を編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 投稿された論稿等の掲載は、編集委員会の合議によって決定する。
7. 掲載される論稿等について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。但し、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

（附則）本規定は、平成13年度発行の『京都大学高等教育研究』第7号から施行する。

『京都大学高等教育研究』投稿規定

1. 論稿の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとし、かつ、当分の間、編集委員会が、編集上の責任を負える範囲でのものとする。この責任の範囲については、投稿の前に、編集委員会に問い合わせること。
2. 論稿は論文と研究ノートより成る。
3. 投稿された論稿は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
4. 用語は原則として日本語を用いること。但し、特殊な文字ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
5. 論稿は原則として以下の作成要領により、ワープロによって作成するものとする。
 - ・ A4版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
 - ・ 1,000字を1頁とし、20頁以内の分量とする（図表、註、参考文献を含む）。
 - ・ 論文題名の後に題名の英訳及び英文200語程度の論文要約を付すこと。
6. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。但し抜き刷りを50部贈呈する。なお、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。
7. 投稿希望者は参考文献表記法等を記した、「『京都大学高等教育研究』投稿のための注意」を編集委員会に請求すること。
8. 本規定の改正は編集委員会が行う。

（付則）本規定は、平成13年度発行の『京都大学高等教育研究』第7号から施行する。

『京都大学高等教育研究』投稿のための注意

平成13年7月31日制定

1. 論稿原稿は未発表のものに限る。但し、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
2. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。計量単位は、原則として国際単位系（SI）を用いる。
3. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。
4. 註及び引用文献は、論稿末に一括して掲げる。引用註は、論文の場合、著者、論文名、雑誌名、巻、号、年、頁の順とし、単行本の場合、著者、書名、発行所、年、頁の順とする。

例 ・田中每実「定時公開授業『ライフサイクルと教育』(1)——平成8年度実施のために——」『京都大学高等教育研究』第2号、1996年、127頁。

・讃岐幸治・田中每実共編『ライフサイクルと教育』青葉図書、1995年、5頁。

5. 引用文献と註を区別し、註は本文中の該当個所に、上付き文字で(1)、(2)……と指示し、論稿原稿末尾にまとめて記載する。記載例は、4による。
6. 引用文献は、本文中では、著者名（出版年）、あるいは（著者名、出版年）として表示する。同一著者の同一年の文献については、a, b, c, ……をつける。

例 ・田中（1995a）が強調するように、……という調査結果も提示されている（田中、1996）。

7. 引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、註のあとにまとめてアルファベット順に記載する。

例 ・田中每実「定時公開授業『ライフサイクルと教育』(1)——平成8年度実施のために——」『京都大学高等教育研究』第2号、1996年。

8. 脚注は、表題、所属機関の補足説明、謝辞、内容の補足説明に限り用いる。全ての脚注を1枚の用紙に書き、ローマ数字……で通し番号をつける。
9. 論文の題名の英訳及び論文の英語による200語程度の要約を、日本語題名の後につけること。

以 上

『京都大学高等教育研究』第7号 編集委員会

藤岡完治 田中每実 石村雅雄
大山泰宏 溝上慎一 ○神藤貴昭
(○は編集委員長)

平成13年8月31日 印刷

非売品

平成13年9月1日 発行

発行 京都大学高等教育教授システム開発センター

京都市左京区吉田本町 (〒606-8501)

TEL 075-753-3087

FAX 075-753-3045

印刷 (株)北斗プリント社

京都市左京区下鴨高木町38-2

TEL 075-791-6125

Kyoto University Researches in Higher Education

vol. 7

CONTENTS

I Articles

Papers

- A Study of the Teaching-learning Process in the University Classroom
— through the participant observation in the university classroom — Kanji FUJIOKA
From Enlightening Activities toward Collaborative Work
— on the FD-projects of Kyoto University Research Center for Higher Education
..... Tsunemi TANAKA
- The Themes and Perspectives of University Educational Evaluation Yasuhiro OYAMA
Seeing Teacher's Development with the Help of Position Theory Shinichi MIZOKAMI
Mana TAGUCHI
- The Classroom Newsletter Constructs the Interaction between Teacher and Students I:
How Have Students Regarded "Fuji-no-Tayori" ? Tetsuya FUJITA
Shinichi MIZOKAMI
- The Classroom Newsletter Constructs the Interaction between Teacher and Students II:
How Has the Interaction Been Constructed ? Shinichi MIZOKAMI
Tetsuya FUJITA
- A probability of Internet in higher education
— toward construction of virtual university — Takaaki SHINTO
Mana TAGUCHI
Masayuki MURAKAMI
- Optimizing information literacy education for the first year course of the Faculty of Education (II):
What students acquired at the end of the whole course Masuo KOYASU
Hajimu HAYASHI
Toru GOUSHIKI
Motonori NAKAMURA

Notes

- FD Activities of Organization and Personal Improvement upon Method of Teaching
..... Masaaki YOSHIDA

II Documents

- VIIth Forum of University Reform; How do we develop education abilities of university faculty?
Opening Remarks Mitsuhiro ARAKI
Commencement Makoto NAGAO
Panel Discussion
Theme: How do we develop education abilities of university faculty?
Presentation of the Problem Kanji FUJIOKA
Comments
"From the view point of curriculum research" Tadahiko ABIKO
"From the view point of class evaluation research by students" Osamu INOSHITA
"From the view point of education development research at universities" Kazuhiro ABE
"From the view point of class research at universities" Tsunemi TANAKA
Discussion

RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2001